

2022年6月12日 午前礼拝
「勝利の信仰」 説教者:堺希望伝道師

【説教要約】

神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。

神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。

私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。

神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。

なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

Iヨハネ 4：20-5：5

①愛と憎しみは矛盾している

神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。

神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。

Iヨハネ 4：20-21

Iヨハネが兄弟愛と憎しみについて語るのは、これで三回目になります。それだけ、兄弟を愛することというのは信仰の大きな要素だということです。一度目には、このように書いてありました。

しかし、私は新しい命令としてあなたがたに書き送ります。これはキリストにおいて真理であり、あなたがたにとっても真理です。なぜなら、やみが消え去り、まことの光がすでに輝いているからです。

光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。

Iヨハネ 2：8-9

「新しい命令」とは、キリストに従って歩むということです。キリストに従って歩むことは、この地上を去るまで消えない命令なのです。

その理由は、「やみが消え去り、まことの光がすでに輝いている」からです。これは、イエス様の十字架と復活のことを指しています。

イエス様が私たちの罪のために十字架にかかり、よみがえられたことは、やみが消え去った出来事なのです。なぜなら、過去、現在、未来すべての罪が十字架によってさばかれ、終わったからです。私たちはもはや、神様以外のものを恐れる必要がありません。イエス様を信じた人は、どんな人でも罪が赦され、地獄ではなく天国に行けるからです。私たちは、自分へのさばきや悪魔など、もはや恐れる必要がなくなったのです。

そして、消えないまことの光が輝いた日でもあります。イエス様の復活は、何者もイエス様に勝つことができない証拠です。悪魔と死に勝利されたので、この時から消えない光が輝いています。

クリスチャンはやみの中にいましたが、イエス様を信じた時にこの消えないまことの光に移されたのです。だから、いつも光であるイエス様に従って歩むべきなのです。

私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。

Iヨハネ 4:19

イエス様に従って歩むとは、イエス様が愛してくださったから、神様と人を愛するということです。

しかし、愛されて光の中に移されたのに、兄弟を憎んでいるならそこには矛盾があります。「実際はまだ、イエス様の愛を知る前のやみの中にいる」と聖書は言います。

また今日の箇所では、「兄弟を愛していない者は神を愛していない」と言われています。兄弟は見える存在で会話ができ、時に困難に遭うことがあります。具体的に、どのように助け、愛すればよいのか分かりやすいのです。しかし神様は目に見えず、お困りにならないお方なので、神を愛すると言っても漠然としてしまうのです。

だから、本当に神様を愛せているのならば、必ず兄弟を愛せているはずなのです。

そして、彼らのうちのひとりの律法の専門家が、イエスをためそうとして、尋ねた。

「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」7 そこで、イエスは彼に言われた。

『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

これがたいせつな第一の戒めです。

『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

マタイ 22:35-40

イエス様が語られた、この二つの律法は表裏一体なのです。神を愛しているが兄弟を愛していないという事はあり得ないし、兄弟を愛していて神を愛していないという事はあり得ないのです。

②「兄弟」を愛する理由

イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。

私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。

Iヨハネ 5:1-2

イエス様のご命令は「隣人」を愛することでしたが、このIヨハネでは特に「兄弟」を愛することが強調されています。兄弟を愛せているかどうか、隣人を愛することの試金石になるからです。

「兄弟」という言葉は、同じ親から産まれた血のつながった存在、あるいは同じ家に生まれなかったけれど養子として引き取られた人に対して使います。

聖書が「兄弟」あるいは「姉妹」と言うのは、クリスチャンが霊的に同じ親から産まれた家族だからです。

「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれた」とあります。

自分がイエス様に愛された、その愛を兄弟姉妹も知って、受け取っているのです。自分と同じように、罪を赦され、永遠のいのちを持っているのです。だから、自分が愛されていること、赦されていることを感謝している時、地上の家族や友人とはまた違った感触で兄弟姉妹を愛するのです。

愛しやすい相手というものがあると思います。趣味が合うとか、生きてきた背景が似ているとか、性格が合うとか。

しかし聖書がここで言うのは、「兄弟だから」愛するということなのです。他の共通点が自分とは一切ない相手がいるかもしれません。地上的には愛しにくい人が兄弟姉妹かもしれません。

「兄弟を愛する」ことは、自分が何を基準に人を愛そうとしているかを見極めるポイントなのです。たとえ合わない相手であっても、同じ主を信じる人として愛することができるなら、きっとどんな人でも愛することができるようになるでしょう。

③信仰と勝利

神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。

なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

Iヨハネ5:3-5

兄弟を愛することを特に見てきましたが、大事な点として「神の命令は、重荷とはならない」のです。

どうということかと言いますと、「命令」と聞けば従わないといけないことだと思ってしまいます。それが神の命令ともなれば、自分にすごく力をかけて、努力して守ろうとするものというイメージがあるかもしれません。

しかし、神様の素晴らしいことは、「疲れ果てて」とか「うんざりしながら」従うものではなく、「喜んで従う」ことができるということです。

自分の力で努力するなら、そこには疲れや大きなストレスが溜まります。神様のところまで、自力で這い上がろうとするようなものです。

実際、パリサイ人や律法学者は努力によって、神に認められようとしていました。しかし人間には、それは不可能だったのです。

しかし、イエスは言われた。「おまえたちもわざわざいだ。律法の専門家たち。人々には負いきれない荷物を負わせるが、自分は、その荷物に指一本さわろうとはしない。

ルカ 11 : 46

神に従うことは不可能だったので、彼らは口だけ人間になってしまいました。こうしなくてはならない、という決まり事では、疲れてしまうのです。

一方イエス様は、

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

マタイ 11 : 28-30

昔イスラエルでは、畑を耕すのに牛を使っていました。二頭一組で綺麗に整地するのですが、二頭が同じ方向に同じ速度で進まなくては、整地ができません。

それで、二頭の首に、くびきという木をはめて、同じように進めるようにしたのです。

同じようにイエス様も、疲れず、軽い荷で歩む道を示しておられます。それはイエス様とくびきをともにすることです。イエス様と同じ方向、同じ速度で進むとき、疲れず、その荷は軽いのです。

なぜなら、私たちが神様に従うのは決まり事を守るためではないからです。愛するとは、チェック項目を埋めていくことではありません。

兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。

ガラテヤ 5 : 13

喜びの中で、自分で決めて、自分からささげるものなのです。神様の命令は、いつもこのようです。

なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

Iヨハネ 5 : 4-5

それは信仰と勝利に繋がっていきます。

信仰とは何でしょうか。信仰とは、信頼のことです。「神は、どんな時でも信頼できるお方である」という心の状態を、信仰と言います。

そのはじまりは、

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があります。

Iヨハネ 4：10

神様の愛を信じた時にはじまりました。この信仰を、「世に打ち勝った」と表現しています。

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

エペソ 6：12

私たちは、いつも戦いをしています。霊的な戦いです。これは、「神の愛を信頼するかしないか」の戦いなのです。神の愛を信頼できない時、私たちは悪魔の力に惑わされます。神様は悪魔より強く、既に勝利されているので、神様に勝てる者はなにもないのです。ですから、悪魔の攻撃はどこに来るかといえば、健康や財産そのものではないのです。それらを通して、「神というお方は信頼できない相手だ」と思わせることが攻撃なのです。

しかし、既に消えない光は輝いているのです。それは、イエス様がよみがえられたから輝きました。

信じた者は、この光にすでに移されています。すでに、私たちには勝利が約束されているのです。それはいつも、イエス様の愛の中にとどまる時に与えられます。

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があります。

Iヨハネ 4：7-10